



## 臨時休校編

## ◆学校生活は、みんながいるから充実する！

学校生活が完全に止まったまま、もうすぐ3か月が経とうとしています。生徒の皆さんは、これまで、小学校、中学校、そして高等学校と、学校に通うことについて、考えてみたことはありますか？皆さんの中には、「勉強がいやだなあ」「朝起きるのがつらいなあ」「学校に行きたくないなあ」と思った時がある人もいるのではないのでしょうか。

特に、本校に入学後、仕事やアルバイトで働きながら学校へ通っている生徒の皆さんは、「学校へ行くのが辛いなあ」と感じることもあるかもしれません。

もちろん皆さんだけではなく、先生方も同じような気持ちになった経験があるのではないのでしょうか。

私も中学3年生の時に、受験勉強に疲れ、起きるのを辛く感じた朝、「学校ってなくならないのかあ」って母に聞いたことがありました。母には、「学校は倒産しないから、早く行きなさい！」と叱られ、行きたくないオーを出して眠い目をこすりながら、学生服に着替えていたのが昨日のこのことです。



学校生活の様子（令和元年度）

さて、風薫る5月となり、過ごしやすい季節となりました。本来であれば、教室では、皆さんの元気な声や笑顔が夕日に照らされながら授業の始まりを待っている光景が、毎日見られたはずです。各教室は、主役である皆さんの登場を待つことなく鍵がかかり、真っ暗なままです。閑散とした校舎内、照明が灯ることのない体育館やグラウンドを目にすると日常的に見ていた光景は、決して当たり前なことではない、と寂しい気持ちになります。今更ながら、みんなが一緒にいることで充実する学校生活は、勉強するためだけにあるのではなく「人として成長するためにある」ものだと気づかされます。皆さんも、みんなの居場所であった荒工での生活について、ぜひこの機会に考えなおし、学校生活の大切さを感じてほしいと思います。

最後に、皆さんにお願いします。ウイルスの感染をこれ以上拡大させないためにも、仕事などの必要性がない限り、家で過ごすことをお願いします。一人一人が「家にいる」という小さな行動により、皆さんの居場所である荒工の生活を1日でも早く取り戻す大きな力になるはず。皆さんに再会できることを願い、自宅にいる皆さんへのエールといたします。頑張れ荒定生！